

(様式第4号)

上田市学校給食運営審議会(第3回) 会議概要

| | |
|-------------|--|
| 1 審議会名 | 上田市学校給食運営審議会 |
| 2 日時 | 令和6年2月1日 午後7時から午後7時55分まで |
| 3 会場 | 市役所本庁舎 連結棟2階 202・203 会議室 |
| 4 出席者 | 山邊久史会長、小池瑞季副会長、遠藤良和委員、金井剛委員、城下敦子委員、城田真裕委員、永井幹則委員、八巻恵子委員、 |
| 5 市側出席者 | 峯村教育長、小野沢教育次長、清水第一学校給食センター所長、武捨第二学校給食センター所長、坂口丸子学校給食センター所長、小須田学校保健給食課長、浅野学校保健給食課学校保健給食係長、池田学校保健給食課主査、山浦学校保健給食課主任 |
| 6 公開・非公開 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 7 傍聴者 | 0人 記者 1人 |
| 8 会議概要作成年月日 | 令和6年2月16日 |

協 議 事 項 等

| |
|---|
| 1 開 会 (事務局) |
| 2 会長あいさつ |
| 3 協議事項 |
| (1) 学校給食費の答申(案)について |
| ・ 会長より答申(案)を示した後、事務局から答申(案)の考え方について補足して説明。 |
| ・ 以降、協議 |
| (委 員) 第2回の審議会を欠席したが、その後、事務局から審議内容等の説明があった。真田地域は他よりも10円安いということと、逆に真田だからこそ維持が難しいという状況を詳しく聞くことができた。地域の方が大切にしてきた自校給食は、できれば存続させたい。真田地域では自校給食が当たり前という思いがあり、今回はそれを転換するという話ではない。前任からは、社会情勢から恐らく値上げに関しては致し方ないという判断をされるだろうが、真田のメリットを残せる内容で話しを進めてほしいと言われている。 |
| また、他の地域よりも安いという部分に着目する方もいるため、自分たちの地域が他の地域よりも上がるということに関しては、いろいろな捉え方がされると思う。これまでの取り組みで、鶏肉はもも肉から胸肉、魚・肉から大豆、果物が他の地域よりも小さいという話を聞くと、1人の親としてはそういった状況が解消できればという部分は共感できるが、お金の部分になると捉え方は様々なので、丁寧な説明が必要だと思う。 |
| (委 員) 第1回、第2回と審議をして、細かいエビデンス等を見ながら、それぞれの委員の意見等が反映された答申案になっている。やはり子供たちの栄養バランス、質、量を考えながら対応することが一番大事である。丸子地域、真田地域も、金額の差をなくすことによって、一品、あるいはそれぞれの課題が解消できるのであれば、このような答申案が良いのではないか。 |
| また、以前から意見が出されていた「大幅な価格上昇に伴う給食費の増加分について」も、今後そのような場合も想定されるため、記載してあり良いと思う。 |
| (委 員) 示された答申案で概ね良いと思うが、これは既に昨年上昇分でぴったり合った金額となっている。個人的にはあと3%くらい上乗せした方が3年後を見据えた時に良いのではないかと思う。 |
| (委 員) この答申案のようになると、給食を作っている現場としてはとても有難い。給食センターが新しくなり、もっといろいろな料理が提供できるようになる。子どもたちにたくさんいろいろな料理を味わってもらいたいので、ぜひこの答申案でお願いしたい。ご意見の中で、栄養バランスを確保した学校給食の提供に努めることや、食育についての情報発信をというような点について、給食センターとしても一生懸命やっていきたい |

い。

(委員) 第2回の審議会は欠席をしたが、会議の様子は事務局から説明があり、議事録も拝見した。丁寧に審議がされ、今日はこのような答申が示された。内容も細かく対応しており、特段問題はないと思う。

家庭で台所を預かる者としては、この金額であれだけのバランスとボリュームのある給食を提供するという事は、本当に苦勞しているのだろうとしみじみ感じている。今後も子どもが減り、物価上昇等もありご苦勞いただくが、よろしくお願ひしたい。

(委員) 皆さんと審議した内容が反映されており、概ね良いと思う。個人的には「やむを得ない」という表現の選び方が面白いと思った。この審議会に参加して、現場の苦勞の局面等が分かり、非常にためになった。今後も、子どもたちの給食のために尽力していただけると有難い。

(会長) 先ほど、3%上乗せでも良いのではないかという意見があったが、その辺はどうか。根拠がしっかり載せられており、さらに3%となると、先を見通してということも大事だとは思いますが、保護者の側からすると金額的にぱっと上がるよりは、少しずつの方が私としては良いと思うが、何か意見はあるか。

(会長) 先を見通してという部分を含めて、議論していただいた。答申案については「特段修正箇所なし」とし、後日、答申書として代表して私から教育長へ提出するという形で進めたいがよろしいか。よろしければ拍手をお願ひしたい。

(委員) 拍手

(会長) 承認ということで進めさせていただきます。

(2) その他について

(委員) 答申書の1枚目に、保護者負担額を審議するものではないことが大前提として記載されており、あえてこの場で申し上げることもないと思うが、私を含め3名の委員はPTA連合会を母体に、各地域の代表として参加している。説明の中で受益者負担という話があり、負担することは問題ないと思う。給食費が無償化されている自治体がある一方で、上田市は給食費の増加分を負担しているという説明があった。また前回、困窮世帯に対する就学援助費の給食費については、他の自治体はあるパーセンテージしか支給していないが、上田市は全額支給しているという説明もあった。無償化をしている自治体がある一方で、上田市の場合には無償化ではなく、受益者負担という考え方であることの説明も本当は必要だと思う。

公費負担してほしいという話ではなく、上田市の教育行政に対して意見ができるのは、保護者代表として集まっている上田市PTA連合会なのではないかと思う。先日、上田市PTA連合会の会合があり、その会合の中ではないが学校給食運営審議会の話題になり、「無償化はどうなっているのか」という声もあった。受益者負担だから保護者が負担するという考えがなかなか保護者には伝わってこないもので、そのような説明をする必要があると思う。

(事務局) PTA連合会から地域の保護者代表として出席している委員の方には、自身のPTAの皆さんの負担を審議することになり、いろいろと心勞をお掛けしている。

他の自治体では給食費無償化の動きがあり、また、給食費の無償化を公約に掲げている政党もある。前回の県知事選では、給食費の無償化を掲げた候補者が立候補した経過もあり、時代の流れとしては、教育、子育て支援という中で、給食費についても、保護者の負担を軽減するという方向で今の政策は動いていると考えている。

しかしながら、上田市の子どもたちの給食費を全額無償化するとすると、単年度で7億から8億円という費用がかかり、それも市の税収の中から、国の補助もなく負担することになる。比較的小規模な町村や、子どもが少ない自治体、東京都のように地方交付税がなくとも財政運営ができる自治体等は、先行してそのような動きをしていると聞いている。上田市としては、単独で全額負担をするのは非常に厳しいというのが実情である。

国では、こども家庭庁の発足に伴い、こどもまんなか社会という政策を打つ中で、給食費

の無償化について財政的に自治体の支援をしていくという方向がある。市としても、国の動きを注視しながら、そのような方向が出てきた場合には、できる限り保護者の皆さんの負担を軽減するような政策を、教育委員会として市長部局と協議してまいりたい。また、議会に対しても、そのような予算の使い方、子どものために貴重な市の税収を使っていく方向を打ち出せるように、アンテナを高くして見ていきたいと考えている。

今回、役員の方がPTAの皆さんへの説明にご苦労されていることが良く分かった。教育委員会としてもしっかり受け止め、今後できる限りそのような方向で軽減することができるように努力してまいりたい。

4 教育長あいさつ

5 事務連絡

今後の日程について

(事務局) 答申は2月8日(木)を予定。

6 閉会 (事務局)